

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	236	3年	後期	看護学科	必修	地域看護学実習 Clinical Practice in Community Health Nursing	135	3
担当教員								
奥田 美恵	田中 美延里	入野 了士		長尾 奈美		瀬戸 裕一	河野 瑠奈	
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
○	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
○	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
○	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
ヘルスプロモーションの理念を基盤に、保健所・市町村における保健医療福祉活動の実際を通して、住民の健康レベル向上をめざす看護活動の方法・技術を学ぶ。								
到達目標（授業目標）								
1 地域で生活する個人・家族の健康レベルを高めるための支援方法を説明できる。								
2 地域住民と関係者、行政と関係機関など、多様な主体の協働を基盤にした地域づくりの方法を説明できる。								
3 地域特性、住民の生活、健康の関連を説明できる。								
4 地域住民の健康にかかわる施策と活動の実際を関連づけて説明できる。								
5 保健師の専門性を捉えることができる。								
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								

授業概要	1. 実習場所：愛媛県内の7保健所および管内市町 2. 実習期間：3週間 時間：8:30～17:00 (保健事業等による変更あり) 3. 実習展開：詳細は実習要綱を参照

成績評価方法及び基準

既存資料の活用によるテーマと地域への接近(10%) 実習評価表(50%)、思考の発展(15%)、実習報告会のまとめとプレゼンテーション内容(25%)で評価する。トータル60点以上を合格とする。

教科書	荒賀直子・後閑容子「公衆衛生看護学.jp第5版」(インターメディカル)、厚生労働統計協会「図説国民衛生の動向2022/2023」(厚生労働統計協会)
-----	--

参考図書等	各看護学の教科書
-------	----------

授業時間外の学習について(授業準備のための指示)

実習計画に合わせて、事前学習が必要である。

関連科目

前科目	231	地域看護学概論	233	健康教育論	234	地域アセスメント	231	地域看護学概論		在宅看護の科目群
後科目		公衆衛生看護科目群								

実務家教員

保健師(行政機関)	奥田 美恵	田中 美延里	入野 了士	瀬戸 裕一	河野 瑠奈	
保健師(職域保健)	長尾 奈美					

備考	<ul style="list-style-type: none">* 実習に掛かる交通費・宿泊費は自己負担（一部助成有）とする。* 現地で使用するiPad・簡易プリンター等の必要物品は大学から貸し出す。* 実習地決定までのスケジュールは以下のとおりである。 <p>3年次5月頃に4年生との交流による実習地に関する情報交換会を開催し、遠隔地実習の醍醐味や交通手段、宿泊施設の確保、引越しや持参物品等について情報提供する機会とする。</p> <p>学生は大型連休中に保護者と事前相談の上、連休明けに実習配置調査票を提出する。</p> <p>5月下旬に教員が仮配置案を提示し、面接相談等によりグループ編成を調整し、6月下旬を目途に実習地を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none">* 実習に関する情報提供 <p>情報科学演習室PC共有フォルダに以下の情報を保管しており、随時閲覧可能である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 過去の実習生からの情報に基づく交通費・宿泊費等の自己負担額・ 県内の公立病院宿舎で利用可能な施設の情報
----	---